

知っておきたいルール ②順序・方向を誤ったときのサービスとレシーブ

【ゲームの状態】

うだるような暑さの中で、ヤマダ・サトウ組とスズキ・タナカ組がダブルスをやっていました。試合は接戦で長い試合となっていました。

a) 順序を誤ったサービス：3対2の第6ゲームのヤマダ君サーブで30－15となって、第4ポイントの第1サーブをフォールトしたときに、バックサイドでレシーブをしていたタナカ君が、「このゲームはサトウ君がサーブをする順番じゃないの？」と言いました。サトウ君のサーブ順序が誤っていることを四人とも確認しました。この後の処置はどうするのでしょうか。

b) サイド(順序)を誤ったレシーブ：4対3の第8ゲームの第1ポイントで、サトウ君のサーブをタナカ君がレシーブミスして15－0となり、第2ポイントのサーブに入ろうとしたサトウ君が、相手のペアーに対して、「レシーブのサイドがおかしいじゃないの？タナカ君はバックサイドだったでしょう。」と言いました。スズキ・タナカ組は、レシーブの順序(サイド)の誤りを認めました。この後の処置はどうするのでしょうか。

c) サイド(方向)を誤ったサービス：4対4の第9ゲームのスズキ君サーブで30－30となって、第5ポイントのサーブを間違えて、アドバンテージサイド(左側、バックサイド)からして、このときは誰も気づかずに、スズキ・タナカ組がポイントを取り40－30となりました。スズキ君が、次に第6ポイントのサーブをしようとしたときに、レシーバーのヤマダ君が「さっきのサービスサイドはデュースサイド(右側、フォーサイド)の間違いでは？」と気づきました。ヤマダ・サトウ組とスズキ・タナカ組の両者は、サービスのサイド(方向)の誤りを認めました。この後の処置はどうするのでしょうか。

【ルールは】

a) 順序を誤ったサービス：パートナーが順序を誤ってサーブをしたときは、その誤りが発見され次第、サーブをすべき順番であったパートナーがサーブをしなければならない。発見される前のポイント及びフォールトは計算される。誤りが発見される前に、ゲームが終わったときは、サービスの順序は入れ替わったままで行う。

b) サイド(順序)を誤ったレシーブ：ゲームの間にサービスを受ける順序をレシーバーが変えたとき、その誤りの発見されたゲームの終わるまで、そのまま続けなければならない。誤ったペアーがレシーバーになる次のゲームで、レシーブの本来の順序に戻らなければならない。

c) サイド(方向)を誤ったサービス：間違ったサイドからサーブをしたときに、誤りに誰も気づかない場合は、そのときのプレーは有効で、誤りに気がつき次第、位置の誤りを正さなければならない。誤りが発見される前のポイント及びフォールトは計算される。

【正しい処置は】

a) 順序を誤ったサービス: 誤りを発見した時点で、すぐにサトウ君のサーブに代わり、サトウ君の第2サーブで試合を再開する。

b) サイド(順序)を誤ったレシーブ: この第8ゲームでは、タナカ君がフォアサイド、スズキ君がバックサイドのままで、このゲームの終わるまで、サトウ君のサーブを受ける。そしてスズキ・タナカ組は、次のレシーブゲーム(第10ゲーム)で、本来のスズキ君がフォアサイド、タナカ君がバックサイドの形に戻る。

c) サイド(方向)を誤ったサービス: このゲームの第5ポイントまでのスコア(スズキ・タナカ組の40-30)は有効で、次の第6ポイントのスズキ君のサーブは、正しい位置のアドバンテージサイド(左側、バックサイド)にして試合を続ける。すなわち、同じアドバンテージサイド(左側、バックサイド)で2回続けてサーブをすることになる。

◆ 2015/3/8: c) サイド(方向)を誤ったサービスを追加。